

事業概要

増加および多様化する精神疾患・障害に対し、「トランスディシプリナリーな多職種連携」によるこころの治療およびケアを有効に実践できるスタッフを養成する。多様性に対応するため、多分野の精神医療専門家を擁する筑波大学の学内連携、茨城県立医療大学および東京慈恵会医科大学との大学間連携、地域連携という 3 つのリソースを活用する。各専門職によるオンデマンド型講義やドラマ形式の映像教材と、疾患別に事例検討を行う演習やコミュニケーションスキル実習を組み合わせ、幅広くかつ実践的な学習を可能としている。これらのプログラムは、eラーニングによる学習とオンラインによる実習・演習で構成されることから、受講生は COVID-19 禍においても安全に地域格差なく受講できる。これらにより、精神科リエゾン、リハビリテーション、コミュニティケア等多様な状況での多職種協働に対応できるメディカルスタッフが養成されることが期待できる。

(様式1)						
職業実践力育成プログラム(BP)への申請について						
令和3年10月5日						
①学校名:	国立大学法人筑波大学		②所在地:	茨城県つくば市天王台1-1-1		
③課程名:	PsySEPTAプログラム	④正規課程/履修証明プログラム:	履修証明プログラム	⑤開設年月日:	令和2年7月1日	
⑥責任者:	医学医療系臨床医学域精神医学教授 新井哲明		⑦定員:	30名	⑧期間:	2年
⑨申請する課程の目的・概要: 300~400字	<p>増加および多様化する精神疾患・障害に対し、「トランスディシプリナリーな多職種連携」によるこころの治療およびケアを有効に実践できるスタッフを養成する。多様性に対応するため、多分野の精神医療専門家を擁する筑波大学の学内連携、茨城県立医療大学および東京慈恵会医科大学との大学間連携、地域連携という3つのリソースを活用する。各専門職によるオンデマンド型講義やドラマ形式の映像教材と、疾患別に事例検討を行う演習やコミュニケーションスキル実習を組み合わせ、幅広くかつ実践的な学習を可能としている。これらのプログラムは、eラーニングによる学習とオンラインによる実習・演習で構成されることから、受講生はCOVID-19禍においても安全に地域格差なく受講できる。これらにより、精神科リエゾン、リハビリテーション、コミュニティケア等多様な状況での多職種協働に対応できるメディカルスタッフが養成されることが期待できる。</p>					
⑩10テーマへの該当の有無	医療・介護	⑪履修資格:	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育法第90条に規定する大学に入学することができる者 ・医師、歯科医師、薬剤師、看護師、助産師、保健師、養護教諭、心理職、栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、精神科ソーシャルワーカー※1、精神保健福祉士、介護支援専門員※2 ※1 精神保健福祉士、社会福祉士、相談支援専門員として、精神障害者を対象とした相談援助業務に従事している者、又は今後行う予定がある者 ※2 介護支援専門員として、精神障害者を対象とした相談援助業務に従事している者、又は今後行う予定がある者 			
⑫対象とする職業の種類:	<ul style="list-style-type: none"> ・医師、歯科医師、薬剤師、看護師、助産師、保健師、養護教諭、心理職、栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、精神科ソーシャルワーカー※1、精神保健福祉士、介護支援専門員※2 ※1 精神保健福祉士、社会福祉士、相談支援専門員として、精神障害者を対象とした相談援助業務に従事している者、又は今後行う予定がある者 ※2 介護支援専門員として、精神障害者を対象とした相談援助業務に従事している者、又は今後行う予定がある者 					
⑬身に付けることのできる能力:	<p>(身に付けられる知識、技術、技能)</p> <p>「精神科多職種連携総論」により多職種におけるスキルを、「9つ(発達障害と児童・思春期精神疾患、統合失調症、気分障害・自殺予防対策、摂食障害、周産期メンタルヘルス、依存症、認知症、リエゾン精神医学、災害精神支援)の各疾患における多職種連携」により精神科領域の全ての疾患の知識を習得するとともに、「コミュニケーションスキル実習」によりコミュニケーションスキルを習得させる。</p>		<p>(得られる能力)</p> <p>①精神科疾患・障害についての専門的な知識を有すること、②精神科疾患・障害に関わる各職種の役割を理解すること、③職種で協働して患者やその家族を中心としたゴールを設定できること、④各精神科疾患・障害に適した多職種連携を実践できること、⑤地域の特性に即した多職種連携を実践できること、⑥各々の職場に適した多職種連携を実践できること、⑦コンフリクトに取り組めること。</p>			
⑭教育課程:	<p>精神科多職種連携総論-お互いを知り、サポートしよう！- 発達障害・児童～青年期の精神疾患における多職種連携 統合失調症における多職種連携 気分障害・自殺予防対策における多職種連携 摂食障害における多職種連携 周産期メンタルヘルスにおける多職種連携 依存症における多職種連携 認知症における多職種連携(筑波大学Ver.) 認知症における多職種連携(慈恵会医科大学Ver.) リエゾン精神医学における多職種連携 災害精神支援における多職種連携 コミュニケーションスキル実習 9つの疾患別演習から2つの疾患別演習を選択</p>					

⑮修了要件(修了授業時数等):	計120時間の講習を受講し、科目毎の試験に合格すること							
⑯修了時に付与される学位・資格等:	履修証明書							
⑰総授業時数:	120	時間	⑱要件該当授業時数:	120時間	該当要件	双方向実務家	⑲要件該当授業時数 / 総授業時数:	100%
⑳成績評価の方法:	①すべてのオンデマンド型講義を受講し、項目毎の試験に合格すること。②オンラインによる疾患別演習に出席し、主体的な学びを継続できるよう学びたいことを受講者本人があらかじめ設定しその課題に対するレポートを提出すること。③コミュニケーションスキル実習に出席し、レポートを提出すること。上記すべて完了したものを修了とする。							
㉑自己点検・評価の方法:	学校教育法第109条第1項に定める評価を実施する。理解度やスキルの習得度について、受講前後に以下の3つの評価尺度を用いて評価している:①多職種チームの協働評価票(Assessment of Interprofessional Team Collaboration Scale- II : AITCS- II)、②多職種連携コンピテンシー日本語版(A Japanese version of Self-assessment Scale of Interprofessional Competency: JASSIC)、③トランスディシプリナリーネットワークスケール(Transdisciplinary Network Scale: TraNS)。なお、TraNSは、回答者が有する多職種ネットワーク、多職種コンピテンシーの理解、チームの役割の理解の向上を測定する目的で、PsySEPTAのために独自に開発したものである。また、外部評価委員において年1回外部評価を受け、事業運営委員会において議論することにより自己点検・評価を行う。							
㉒修了者の状況に係る効果検証の方法:	修了者の理解度やスキルの習得度について、受講前後に以下の3つの評価尺度を用いて評価している:①多職種チームの協働評価票(Assessment of Interprofessional Team Collaboration Scale- II : AITCS- II)、②多職種連携コンピテンシー日本語版(A Japanese version of Self-assessment Scale of Interprofessional Competency: JASSIC)、③トランスディシプリナリーネットワークスケール(Transdisciplinary Network Scale: TraNS)。なお、TraNSは、回答者が有する多職種ネットワーク、多職種コンピテンシーの理解、チームの役割の理解の向上を測定する目的で、本事業で独自に開発したものである。さらに、受講後のアンケート調査を実施し、多職種連携についての意識や実践の変化等について評価している。また、eラーニングの講義後にミニテストを実施し、内容理解の定着および評価を行うことにより効果検証を行う。							
㉓企業等の意見を取り入れる仕組み:	(教育課程の編成) 外部評価委員において年1回外部評価を受け、事業運営委員会において議論することにより、カリキュラムの再検討、オンデマンド型講義・演習・実習からなるオンラインコンテンツの更なるブラッシュアップを行う。 (自己点検・評価) 外部評価委員において年1回外部評価を受け、事業運営委員会において議論することにより自己点検・評価を行い、外部からの意見を反映させる。							
㉔社会人が受講しやすい工夫:	すべてのプログラムがオンラインで完結するため、地理的・時間的障壁がないこと。 いつでもどこでも視聴できるよう、オンデマンド型講義は10分単位で視聴できるようにしていること。 孤独になりがちなオンデマンド型講義の視聴だけではなく、オンライン演習・実習で仲間やプロフェッショナルとつながれるようにしていること。							
㉕ホームページ:	(URL) http://www.hosp.tsukuba.ac.jp/PsySEPTA/							

(様式2)									
授業科目の概要について									
学校名:	筑波大学							要件該当授業時数:	120時間
課程名:	PsySEPTAプログラム							要件該当授業時数/総授業時数:	100%
分類	科目名	配当年次	授業時数	企業等	双方向	実務家	実地	担当教員・実務家名	教員・実務家の所属
必修	精神科多職種連携総論-お互いを知りサポートしよう！-	1	16			○		新井哲明・山川百合子ほか	筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学・茨城県立医療大学医科学センターほか(実務家教員)
必修	発達障害・児童～青年期の精神疾患における多職種連携	1～2	11.5			○		佐藤晋爾ほか	筑波大学医学医療系茨城県地域臨床教育センター精神科ほか(実務家教員)
必修	統合失調症における多職種連携	1～2	6			○		井出政行ほか	筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学ほか(実務家教員)
必修	気分障害・自殺予防対策における多職種連携	1～2	8			○		太刀川弘和ほか	筑波大学医学医療系臨床医学域災害・地域精神医学ほか(実務家教員)
必修	摂食障害における多職種連携	1～2	5			○		根本清貴ほか	筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学ほか(実務家教員)
必修	周産期メンタルヘルスにおける多職種連携	1～2	6.5			○		根本清貴ほか	筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学ほか(実務家教員)
必修	依存症における多職種連携	1～2	6			○		森田展彰ほか	筑波大学医学医療系社会精神保健学ほか(実務家教員)
必修	認知症における多職種連携(筑波大学Ver.)	1～2	11			○		新井哲明ほか	筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学ほか(実務家教員)
必修	認知症における多職種連携(慈恵会医科大学Ver.)	1～2	12			○		繁田雅弘ほか	東京慈恵会医科大学精神医学講座ほか(実務家教員)
必修	リエゾン精神医学における多職種連携	1～2	5			○		太刀川弘和ほか	筑波大学医学医療系臨床医学域災害・地域精神医学ほか(実務家教員)
必修	災害精神支援における多職種連携	1～2	6			○		太刀川弘和ほか	筑波大学医学医療系臨床医学域災害・地域精神医学ほか(実務家教員)
必修	コミュニケーションスキル実習	1	22		○	○		新井哲明ほか	筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学ほか(実務家教員)
必修	疾患別演習	1～2	5		○	○		新井哲明ほか	筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学ほか(実務家教員)
			/						
合計:	13科目							120	時間